

環境試料(大気浮遊じん及び大気降下物)中の  
核種分析調査結果  
(令和3年度)

# 調査の概要

## 1. 評価の対象とする調査

環境放射線等モニタリング調査(離島調査)

環境放射能水準調査(水準調査)

## 2. 調査試料及び調査地点

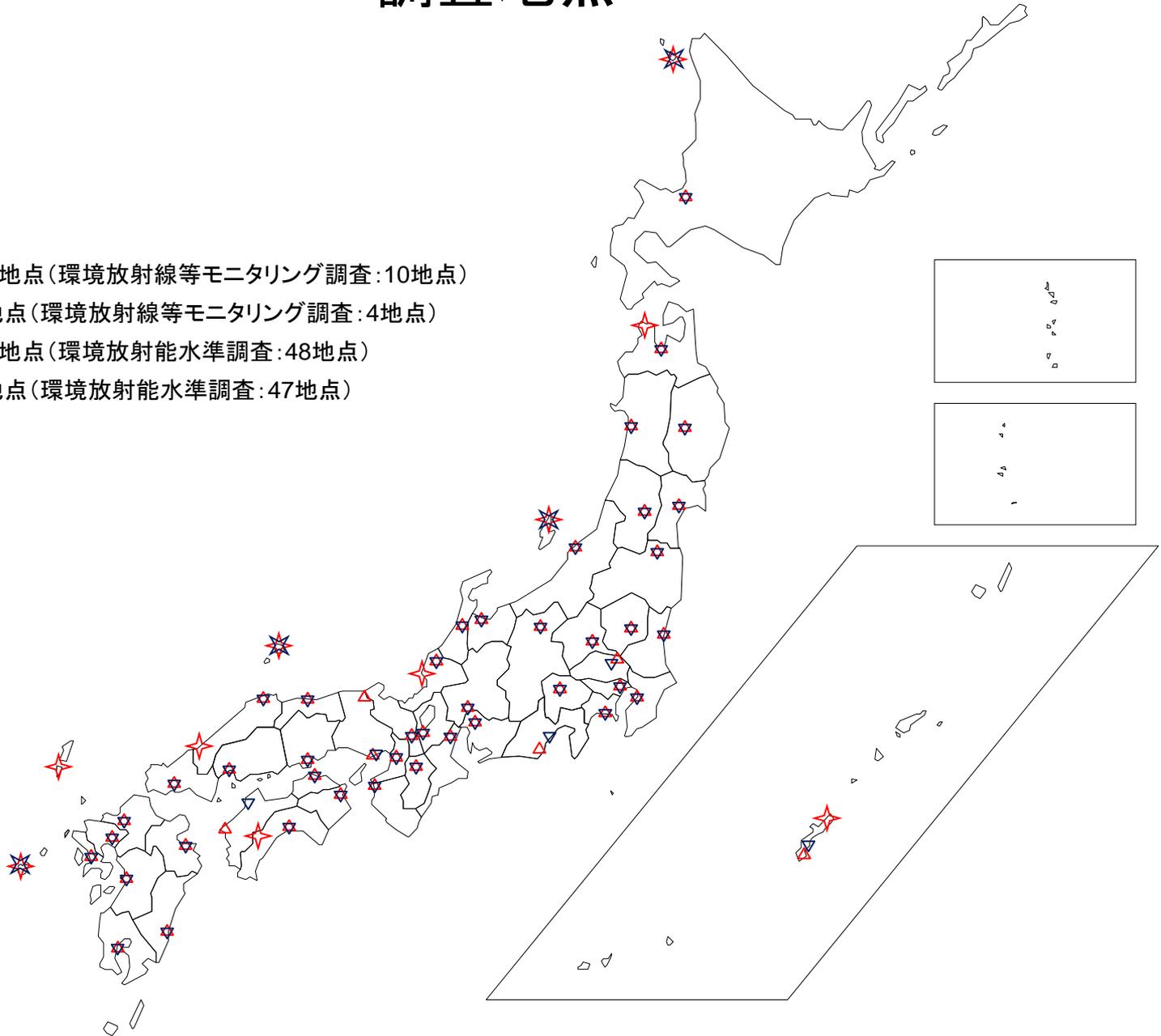
調査試料	調査地点	
	離島調査	水準調査
大気浮遊じん	8道県 10地点	47都道府県 48地点
大気降下物	4道県 4地点	47都道府県 47地点

## 3. 調査方法

Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリー

# 調査地点

- ✧ 大気浮遊じん 採取地点 (環境放射線等モニタリング調査: 10地点)
- ✧ 大気降下物 採取地点 (環境放射線等モニタリング調査: 4地点)
- △ 大気浮遊じん 採取地点 (環境放射能水準調査: 48地点)
- ▽ 大気降下物 採取地点 (環境放射能水準調査: 47地点)



# 大気浮遊じんの調査結果

エアサンプラ(大気採取機器)を使用し、大気中に浮遊している「ちりやほこり」をろ紙上に集め、分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

# 大気浮遊じん(離島調査)の評価方法

今回の評価対象とする 調査結果	令和3年4月 - 令和4年3月採取分 (7道県 9地点)* 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成30年4月 - 令和3年3月採取分 (8道県 10地点) 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 (8道県 10地点) 連続捕集、3か月ごとに分析

※ 佐渡関岬測定所においては、暴風雪の影響により停電が発生(令和3年1月7日～令和4年5月25日)し、評価対象の全期間で欠測となったため、対象外とする。

# 離島調査における大気浮遊じんの調査結果一覧

γ線スペクトロメトリー

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月		
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
利尻	ND	ND	1.5 - 2.6	ND	ND	1.5 - 3.3	ND	ND	ND - 3.1
竜飛岬	ND	ND	2.3 - 2.8	ND	ND	1.8 - 4.0	ND	ND	1.6 - 3.9
佐渡関岬 <sup>※</sup>	-	-	-	ND	ND	1.9 - 4.2	ND	ND	ND - 4.3
越前岬	ND	ND	2.0 - 4.1	ND	ND	1.5 - 4.4	ND	ND	2.2 - 5.7
隠岐	ND	ND	3.4 - 6.5	ND	ND	1.7 - 4.8	ND	ND	ND - 4.5
蟠竜湖	ND	ND	1.7 - 4.2	ND	ND	1.8 - 4.7	ND	ND	ND - 4.7
檮原	ND	ND	1.4 - 4.7	ND	ND	1.3 - 4.8	ND	ND	ND - 4.8
対馬	ND	ND	1.8 - 4.3	ND	ND - 0.0058	1.6 - 4.7	ND	ND	ND - 4.6
五島	ND	ND - 0.010	1.7 - 5.4	ND	ND	1.6 - 4.7	ND	ND	ND - 4.9
辺戸岬	ND	ND	1.0 - 4.1	ND	ND	1.1 - 4.7	ND	ND - 0.0095	ND - 4.9

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射線核種である<sup>134</sup>Cs及び<sup>137</sup>Csを記載した。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の<sup>137</sup>Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる<sup>137</sup>Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

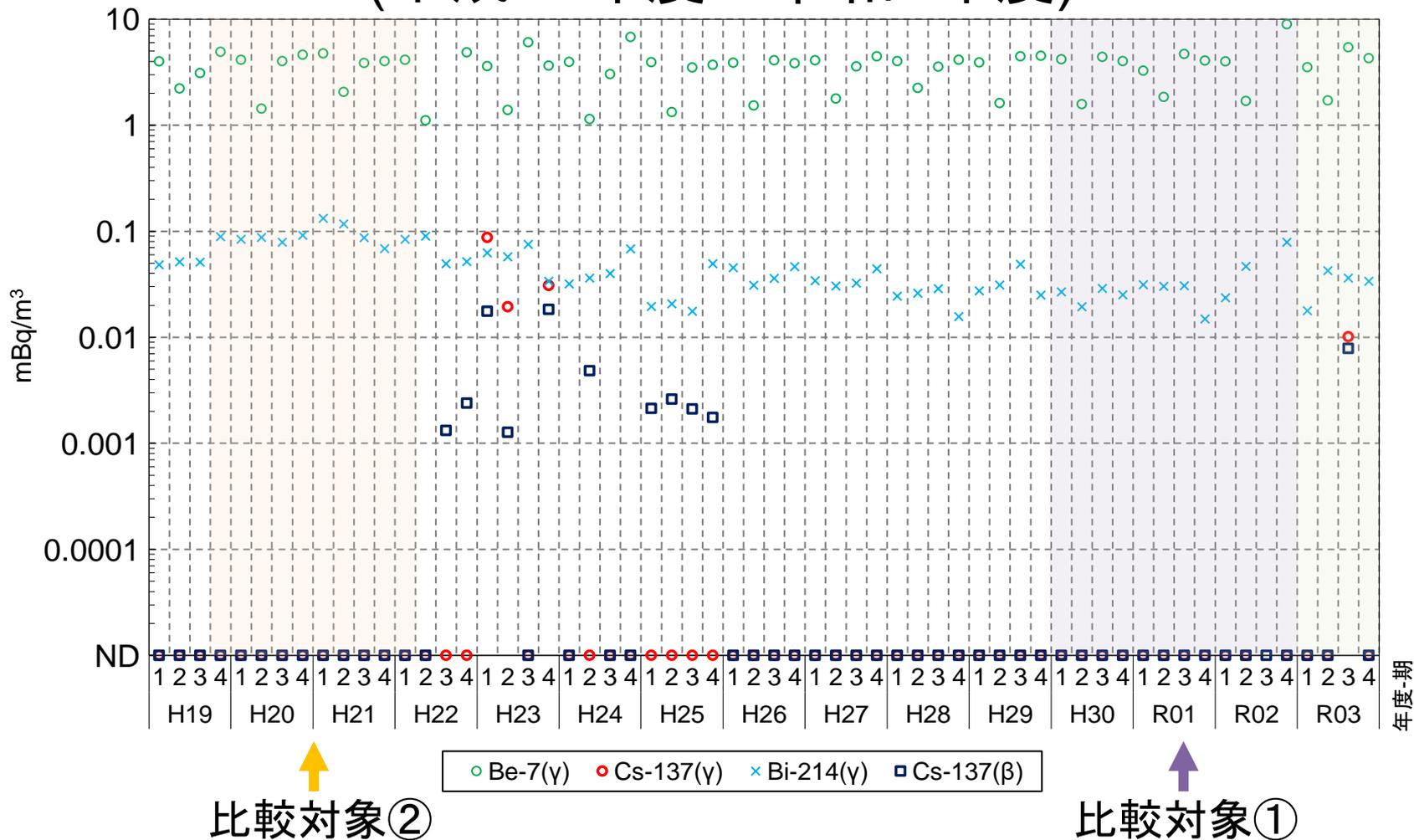
測定値は、試料採取日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料3に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※ 佐渡関岬測定所においては、暴風雪の影響により停電が発生し、令和3年1月7日～令和4年5月25日の期間欠測となったため、評価対象外とする。

# 大気浮遊じん(五島測定所)の経時変化 (平成19年度－令和3年度)



東日本大震災の翌年度(H23年度)の<sup>137</sup>Cs濃度と比べると低いですが過去3か年度の検出はない。  
また、天然核種の<sup>7</sup>Beや<sup>214</sup>Biの放射能濃度は、他の期間と比べて同程度であった。

## 水準調査等において<sup>137</sup>Csを検出した調査結果 (北陸地方から九州・沖縄地方までの日本海側及び東シナ海側自治体)

地点	採取期間	放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )
五島測定所(γ)	R 3/ 9/27 ~ R 3/12/24	0.010 ± 0.0019
鳥取県 米子市 <sup>※</sup>	R 3/12/ 1 ~ R 3/12/31	0.01

(比較対象①:平成30年4月から令和3年3月採取分)

地点	採取期間	放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )
島根県 松江市	R 2/ 3/31 ~ R 2/ 7/ 1	0.0006 ± 0.0001
京都府 舞鶴市 <sup>※</sup>	R 1/ 5/ 1 ~ R 1/ 6/ 1	0.0059 ± 0.001

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

※ 原子力発電所等周辺環境放射線モニタリングの調査結果である。

過去3か年度において、西日本で稀に<sup>137</sup>Csが検出されることがある。

# 大気浮遊じん(水準調査)の評価方法

今回の評価対象とする調査結果	令和3年4月 - 令和4年3月採取分 47都道府県 48地点 3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成30年4月 - 令和3年3月採取分 47都道府県 48地点 3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 37府県 37地点 3か月ごとに分析

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(1)

単位: mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
北海道札幌市	-	ND	2.5 - 3.6	ND	ND	1.6 - 3.8	-	-	-	H24/4/25
青森県青森市	ND	ND	1.8 - 3.4	ND	ND	1.9 - 4.9	-	-	-	H24/4/20
岩手県盛岡市	ND	ND	3.5 - 5.7	ND	ND	2.3 - 7.9			1.8 - 6.1	S63/4/6
宮城県仙台市	ND	ND - 0.0053		ND	ND - 0.0080		-	-	-	H24/4/20
秋田県秋田市	ND	ND	4.0 - 7.7	ND	ND	1.9 - 6.5		ND	1.7 - 3.5	H4/4/27
山形県山形市	ND	ND	2.2 - 4.3	ND	ND	1.6 - 3.7		ND	1.4 - 4.6	H1/4/14
福島県福島市	ND	0.0094 - 0.027	2.8 - 4.1	ND - 0.0079	0.011 - 0.14	1.4 - 5.4	-	-	-	H26/4/8
茨城県ひたちなか市	ND	ND	3.9 - 6.4	ND	ND - 0.0093	2.4 - 7.5	ND	ND	3.9 - 5.5	S63/4/1
栃木県宇都宮市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		S63/1/21
群馬県前橋市	ND	ND	1.7 - 3.7	ND	ND	1.3 - 3.9		ND	1.1 - 4.2	H2/10/31
埼玉県加須市	ND	ND	0.88 - 3.5	ND	ND	0.90 - 3.3		ND	1.4 - 9.3	H20/4/3

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

空欄は環境放射線データベースに核種分析結果が登録されていない。

「-」は調査開始前を示す。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料4に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(2)

単位: mBq/m<sup>3</sup>

	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
千葉県市原市	ND	ND	2.0 - 3.3	ND	ND	0.95 - 6.0	ND	ND	2.9 - 6.9	H3/4/4
東京都新宿区	ND	ND	1.7 - 3.2	ND	ND - 0.010	1.3 - 3.3	-	-	-	H24/4/5
神奈川県茅ヶ崎市	ND	ND	2.6 - 3.1	ND	ND	0.72 - 3.9	ND	ND	1.2 - 4.0	H1/3/28
新潟県新潟市	ND	ND	1.7 - 4.2	ND	ND	1.2 - 5.1		ND	2.8 - 5.0	S63/4/18
富山県射水市	ND	ND		ND	ND			ND		S63/4/20
石川県金沢市	ND	ND	1.8 - 3.5	ND	ND	1.2 - 3.5	-	-	-	H24/4/20
福井県福井市	ND	ND	2.9 - 7.6	ND	ND	2.0 - 5.1		ND	1.7 - 5.6	S63/4/12
山梨県甲府市	ND	ND	2.4 - 5.3	ND	ND	1.3 - 5.7		ND	2.3 - 6.3	S63/4/21
長野県長野市	ND	ND	2.0 - 4.0	ND	ND	1.3 - 5.1		ND	1.3 - 6.5	S63/10/17
岐阜県各務原市	ND	ND	3.2 - 5.4	ND	ND	1.2 - 6.6	ND	ND	1.2 - 4.4	H2/11/21
静岡県牧之原市 <sup>※</sup>	ND	ND	3.1 - 5.8	ND	ND	1.4 - 6.7		ND	2.2 - 7.0	S63/4/20
愛知県名古屋市	ND	ND	2.2 - 5.0	ND	ND	1.5 - 4.8		ND	1.3 - 4.3	S63/1/20

※ 静岡県の採取地点は、平成28年10月より御前崎市から牧之原市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(3)

単位: mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
三重県四日市市	ND	ND		ND	ND			ND		S63/10/3
滋賀県大津市	ND	ND	3.2 - 6.4	ND	ND	1.9 - 8.1		ND	1.1 - 5.7	H1/10/21
京都府京都市	ND	ND	1.9 - 4.7	ND	ND	0.093 - 5.2		ND	2.3 - 5.4	S63/4/11
大阪府大阪市	ND	ND	1.5 - 9.0	ND	ND	1.1 - 4.1			1.7 - 9.7	S63/10/3
兵庫県神戸市	ND	ND	1.9 - 5.3	ND	ND	1.9 - 4.5		ND	1.7 - 5.1	S62/11/16
兵庫県豊岡市	ND	ND	1.9 - 4.2	ND	ND	1.1 - 4.2		ND	1.9 - 4.2	S62/11/27
奈良県桜井市	ND	ND		ND	ND			ND	1.4 - 4.1	H2/3/5
和歌山県和歌山市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		S63/4/1
鳥取県湯梨浜町	ND	ND		ND	ND		ND	ND	1.4 - 4.1	H2/10/2
島根県松江市	ND	ND		ND	ND - 0.00060	3.7 - 7.2	-	-	-	H24/3/30
岡山県岡山市	ND	ND		ND	ND			ND	1.2 - 4.3	H4/1/20
広島県広島市		ND	1.3 - 3.9		ND	1.2 - 4.3			2.0 - 4.3	H1/4/5
山口県山口市	ND	ND	2.7 - 6.0	ND	ND	2.1 - 6.6		ND	0.18 - 6.9	S63/11/21

# 水準調査における大気浮遊じんの調査結果一覧(4)

単位: mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
徳島県徳島市	ND	ND		ND	ND			ND		H2/4/16
香川県高松市	ND	ND	2.1 - 3.5	ND	ND	1.1 - 5.1		ND	1.8 - 9.8	S63/7/27
愛媛県八幡浜市	ND	ND	0.54 - 4.1	ND	ND	1.3 - 5.3	-	-	-	H24/4/4
高知県高知市	ND	ND	1.6 - 5.1	ND	ND	1.6 - 5.5	-	-	-	H24/4/18
福岡県太宰府市	ND	ND	2.4 - 5.7	ND	ND	1.2 - 7.5	-	-	-	H24/4/24
佐賀県佐賀市	ND	ND	1.8 - 5.0	ND	ND	1.1 - 5.6		ND	1.9 - 6.2	S63/6/22
長崎県大村市	ND	ND	2.4 - 11	ND	ND	1.4 - 10		ND	1.2 - 19	H2/10/3
熊本県宇土市	ND	ND	1.7 - 5.6	ND	ND	1.1 - 7.0		ND	2.5 - 5.7	H1/10/11
大分県大分市	ND	ND	1.8 - 6.5	ND	ND	1.4 - 7.2		ND	1.4 - 6.0	S63/4/1
宮崎県宮崎市	ND	ND	2.2 - 6.7	ND	ND	1.9 - 7.9		ND	ND - 5.9	S63/7/4
鹿児島県薩摩川内市 <sup>※1</sup>	ND	ND	1.7 - 5.7	ND	ND	2.2 - 6.0 (2.5 - 3.0)	-	-	-	H24/4/20
沖縄県うるま市 <sup>※2</sup>	ND	ND	1.4 - 6.0	ND	ND	1.2 - 6.2		ND	0.98 - 9.2	H17/6/21

※1 鹿児島県の採取地点は、平成30年10月より鹿児島市から薩摩川内市に変更された。比較対象①においてカッコ内の数値は地点変更前のデータである。

※2 沖縄県の採取地点は、平成29年4月より南城市からうるま市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

## 大気浮遊じんの調査結果の評価

γ線スペクトロメリーによって大気浮遊じんを分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である $^{137}\text{Cs}$ がわずかに検出されたものの、ほぼ全ての地点において不検出であった。なお、 $^{134}\text{Cs}$ についてはすべての地点で不検出であった。

また、今回の調査結果は、五島測定所を除き概ね過去の調査結果(①過去3か年度及び②東日本大震災前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかったと考えられる。また、今回の五島測定所を含めて稀に $^{137}\text{Cs}$ が検出される事例があることから、今後も注視する必要がある。

# 大気降下物の調査結果

水を充填した大型水盤を用いて、一定期間に地上に降ってきた雨やちり等の分析を行うことにより、大気中における放射性物質の状況を把握することができる。

# 大気降水物(離島調査)の評価方法

今回の評価対象とする調査結果	令和3年4月 - 令和4年3月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成30年4月 - 令和3年3月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 4道県 4地点 連続捕集、3か月ごとに分析

4地点は利尻、佐渡関岬、隠岐、五島

# 離島調査における大気降下物の調査結果一覧

γ線スペクトロメリー

(単位: MBq/km<sup>2</sup>)

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月		
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
利尻	ND	ND - 0.052	180 - 590	ND	ND - 0.12	160 - 430	ND	ND - 0.20	220 - 460
佐渡関岬	ND	ND - 0.062	87 - 630	ND	ND - 0.11	170 - 600	ND	ND - 0.15	210 - 910
隠岐	ND	ND	50 - 550	ND	ND - 0.17	110 - 550	ND	ND - 0.12	140 - 570
五島	ND	ND	180 - 480	ND	ND - 0.095	220 - 510	ND	ND - 0.12	150 - 490

Ge半導体検出器によるγ線スペクトロメリーで検出可能な核種のうち、代表的な人工放射性核種である<sup>134</sup>Cs及び<sup>137</sup>Csを記載した。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

詳細な調査結果は参考資料3に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 大気降水物(水準調査)の評価方法

今回の評価対象とする 調査結果	令和3年4月 - 令和4年3月採取分 47都道府県 47地点 連続捕集、1か月ごとに分析
比較対象① [過去3か年度]	平成30年4月 - 令和3年3月採取分 47都道府県 47地点 連続捕集、1か月ごとに分析
比較対象② [東日本大震災前3か年]	平成20年1月 - 平成22年12月採取分 46都道府県46地点 連続捕集、1か月ごとに分析

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(1)

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
北海道札幌市	ND	ND - 0.044	15 - 290	ND	ND - 0.049	39 - 300	ND	ND - 0.15	34 - 270	H2/10/1
青森県青森市	ND	ND	55 - 990	ND	ND - 0.067	38 - 890	ND	ND - 0.18	96 - 550	H3/1/5
岩手県盛岡市	ND	ND - 0.29	58 - 260	ND	ND - 0.33	38 - 330	ND	ND - 0.10	0.017 - 330	S63/4/1
宮城県仙台市	ND	0.11 - 0.76		ND - 0.20	0.087 - 2.0			ND	24 - 310	H1/4/3
秋田県秋田市	ND	ND	44 - 720	ND	ND - 0.082	35 - 590	ND	ND - 0.31	54 - 530	H1/12/31
山形県山形市	ND	ND - 0.39	69 - 300	ND - 0.092	ND - 0.81	56 - 290	ND	ND	ND - 260	H1/4/1
福島県福島市	ND - 1.3	0.88 - 30		ND - 6.9	1.0 - 82		-	-	-	H26/4/3
茨城県ひたちなか市	ND	0.17 - 2.2	52 - 320	ND - 0.78	0.32 - 6.7	27 - 450	ND	ND - 0.62	10 - 350	S63/4/1
栃木県宇都宮市	ND - 0.066	ND - 0.56		ND - 0.26	ND - 3.2		ND	ND - 0.083		S63/1/4
群馬県前橋市	ND - 0.084	0.066 - 2.5	9.7 - 320	ND - 0.26	0.072 - 3.3	4.5 - 300		ND - 0.12	9.8 - 260	H2/10/23
埼玉県吉見町	ND	ND - 0.15	18 - 430	ND	ND - 0.47	5.9 - 420		ND - 0.14	23 - 410	H4/1/4

原子力規制庁の環境放射線データベース内の調査結果を基に作成した。

空欄は環境放射線データベースに核種分析結果が登録されていない。

「-」は調査開始前を示す。

測定値は、計数値が計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

詳細な調査結果は参考資料4に掲載した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(2)

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
千葉県市原市	ND	ND - 0.34	33 - 230	ND - 0.13	0.074 - 1.2	26 - 360	ND	ND - 0.075	14 - 360	H2/10/1
東京都新宿区	ND - 0.062	0.086 - 0.92	38 - 280	ND - 0.21	0.15 - 2.3	19 - 450	ND	ND	9.6 - 430	H1/10/2
神奈川県茅ヶ崎市	ND	ND - 0.22	34 - 320	ND - 0.044	0.059 - 0.55	16 - 330	ND	ND	17 - 380	S52/10/1
新潟県新潟市	ND	ND - 0.048	85 - 510	ND	ND - 0.070	46 - 610	ND	ND - 0.082	ND - 540	S63/4/1
富山県射水市	ND	ND - 0.046		ND	ND - 0.064			ND - 0.28		S63/3/1
石川県金沢市	ND	ND - 0.047	150 - 1200	ND	ND - 0.076	87 - 1500	ND	ND - 0.54	77 - 1600	H2/3/29
福井県福井市	ND	ND	120 - 1000	ND	ND - 0.14	43 - 1300		ND - 0.35	52 - 1300	S63/3/30
山梨県甲府市	ND	ND	27 - 290	ND	ND	6.1 - 340	ND	ND	15 - 420	S63/4/1
長野県長野市	ND	ND - 0.072	34 - 280	ND	ND - 0.15	20 - 250		ND	13 - 170	S62/11/2
岐阜県各務原市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		H2/11/1
静岡県牧之原市 <sup>※</sup>	ND	ND - 0.084	28 - 520	ND	ND - 0.042 ( ND )	19 - 460 ( 490 )	ND	ND	27 - 510	S63/4/1
愛知県名古屋	ND	ND	18 - 200	ND	ND	7.0 - 210		ND	25 - 250	S62/12/1

※ 静岡県の採取地点は、平成30年5月より静岡市から牧之原市に変更された。  
比較対象①におけるカッコ内の数値及び比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(3)

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
三重県四日市市	ND	ND - 0.076		ND	ND			ND - 0.071		S63/10/1
滋賀県大津市	ND	ND	30 - 240	ND	ND	37 - 330		ND	26 - 300	H1/11/1
京都府京都市	ND	ND	30 - 210	ND	ND	22 - 260	ND	ND - 0.32	17 - 300	S63/4/1
大阪府大阪市	ND	ND	19 - 220	ND	ND	9.3 - 220		ND	28 - 240	S63/9/30
兵庫県加古川市 <sup>※</sup>	ND	ND	13 - 150	ND	ND	2.9 - 180		ND	13 - 180	S62/9/30
奈良県桜井市	ND	ND		ND	ND			ND	16 - 190	H1/12/28
和歌山県和歌山市	ND	ND		ND	ND		ND	ND		S63/4/1
鳥取県湯梨浜町	ND	ND		ND	ND		ND	ND - 0.15	21 - 750	H2/10/1
島根県松江市	ND	ND - 0.036		ND	ND - 0.065	15 - 510	ND	ND - 0.22	31 - 680	S63/3/31
岡山県岡山市	ND	ND	11 - 150	ND	ND	2.2 - 220	ND	ND	ND - 170	H4/2/1
広島県広島市	ND	ND	23 - 210	ND	ND	4.6 - 360		ND - 0.11	6.3 - 280	H1/2/1
山口県山口市	ND	ND	52 - 310	ND	ND	22 - 390		ND - 6.5	30 - 450	S63/10/1

※ 兵庫県の採取地点は、平成30年4月より神戸市から加古川市に変更された。比較対象②は地点変更前のデータである。

# 水準調査における大気降下物の調査結果一覧(4)

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②			調査開始時期
	令和3年4月 - 令和4年3月			平成30年4月 - 令和3年3月			平成20年1月 - 平成22年12月			
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	
徳島県徳島市	ND	ND		ND	ND			ND		H2/4/1
香川県高松市	ND	ND	16 - 130	ND	ND	5.8 - 180	ND	ND	18 - 250	S63/7/1
愛媛県松山市 <sup>※1</sup>	ND (ND)	ND (ND)		ND	ND			ND - 0.13		S63/4/1
高知県高知市	ND	ND	21 - 620	ND	ND	34 - 600		ND	40 - 540	H1/11/1
福岡県太宰府市	ND	ND		ND	ND	29 - 260	ND	ND - 0.075	34 - 450	H1/10/2
佐賀県佐賀市	ND	ND	6.0 - 290	ND	ND	30 - 440	ND	ND - 0.20	18 - 420	S63/5/2
長崎県大村市	ND	ND	8.3 - 300	ND	ND	40 - 350	ND	ND - 0.085	15 - 430	H2/12/1
熊本県宇土市	ND	ND	16 - 280	ND	ND	27 - 350		ND - 0.11	20 - 240	H1/11/1
大分県大分市	ND	ND	12 - 250	ND	ND	43 - 350		ND	34 - 2700	S63/3/1
宮崎県宮崎市	ND	ND - 0.062	36 - 470	ND	ND	ND - 440	ND	ND - 0.11	16 - 720	S63/8/1
鹿児島県薩摩川内市 <sup>※2</sup>	ND	ND	33 - 550	ND	ND	32 - 400 (36 - 220)	ND	ND - 0.040	21 - 300	S63/5/2
沖縄県うるま市	ND	ND	11 - 330	ND	ND	8.7 - 180		ND	0.10 - 360	S63/4/1

※1 愛媛県の採取地点は、令和4年3月より松山市から八幡浜市に変更された。  
調査結果におけるカッコ内の数値、比較対象①及び②は地点変更前のデータである。

※2 鹿児島県の採取地点は平成30年10月より鹿児島市から薩摩川内市に変更された。  
比較対象①におけるカッコ内の数値及び比較対象②は地点変更前のデータである。

## 大気降下物の調査結果の評価

γ線スペクトロメトリーによって大気降下物を分析した結果、一部の調査地点では、人工放射性核種である $^{134}\text{Cs}$ 及び $^{137}\text{Cs}$ が検出されたものの、ほとんどの地点において検出下限値を下回るかあるいはわずかな検出であった。

また、今回の調査結果は、過去の調査結果(①過去3か年度及び②東日本大震災前のデータ)と比べて特段の変化は見られなかったことから、新たな事象による人工放射性核種の影響は認められなかったものと考えられる。